

技能伝承に取り組む企業の好事例発表及び意見交換会

(ITを活用した生産性向上の取組みを実施する企業の好事例発表及び意見交換会と同時開催)

1. 日時 平成29年12月18日(月) 13:30~16:30

2. 会場 杉妻会館 3階「百合」(福島市杉妻町3-45)

3. 参加者

○コーディネーター

(株)エフコム経営企画室長兼事業支援本部内部統制部長 山川 克広 様
(中小企業診断士/ITストラテジスト/ITマスター)

○技能伝承に取り組む企業の好事例発表企業

(技能伝承における造園協会の取組みについて)

一般社団法人 福島県造園建設業協会 専務理事 中嶋 都 様

一般社団法人 福島県造園建設業協会 青年部長 関根 巨樹 様

○ITを活用した生産性向上や品質の向上等に取り組む企業の好事例発表企業

(将来に向けた生産性向上の取組み)

坂内畳店 代表取締役 坂内 章宏 氏

○ものづくりマイスターがITを活用して生産性向上等に資する実技指導を行った 好事例発表企業

(求められたカタチを迅速かつ忠実に実現)

株式会社 ヨコハマ吉倉 代表取締役社長 佐藤 優 様

○意見交換会参加企業

- ・株式会社 クリエイティブダイワ
- ・高橋電機 株式会社
- ・福島県商工労働部産業人材育成課

コーディネーター・好事例発表者・意見交換参加者 6社(団体) 14名

4. 技能伝承に取り組む企業の好事例発表

好事例発表	一般社団法人 福島県造園建設業協会	専務理事	中嶋 都 様
	一般社団法人 福島県造園建設業協会	青年部長	関根 巨樹 様

(専務理事 中嶋 都 様)

技能伝承取組の糸口は、平成23年3月に発生した東日本大震災に伴う福島原子力発電所の事故である。

事故の発生によって課せられたのは、除染作業が主となり、本協会青年部から造園技能、技術の衰退が不安視されてきた。

平成27年度からは、ようやく業界全体が通常のペースに戻りつつあったが、各企業単体での対応が困難な状況になってきた。

青年部会では、熟練技能者の「経験値」や「技の感性」を習得し、後世に造園技術を繋ぐため、厚労省所管の若年技能者人材育成支援等事業（ものづくりマイスター制度）を活用して、造園業に携わる若年層の技能・技術の向上を目的とした講習会を平成27年度から実施している。

(青年部長 関根 巨樹 様)

平成27年度から本年度まで、毎年3回、本協会に所属する青年部会員の内20名前後に対して、造園技能検定課題、石張り、石積、芝の管理、日本古来の光悦寺垣、茶庭、一坪庭の作庭等の実技指導を「ものづくりマイスター制度」を活用して実施している。

この結果、技能・技術の向上と併せて世代を超えた交流が深まることが期待できた。

今後も青年部会として、伝統的な造園技能の習得だけでなく、顧客の多様なニーズに応えられる現代における作庭技術・技能を習得していきたい。



5. ITを活用した生産性向上や品質の向上等に取り組む企業の好事例発表

好事例発表	坂内畳店	代表取締役	坂内 章宏 様
-------	------	-------	---------

畳業界の現況は、高齢化と人材不足による後継者不足、また、生活スタイルの変化による需要の激減等ある。

昭和53年頃からは、従来の手縫い畳製作から機械化が進み、畳店の減少に益々拍車がかかった。

このような時代の変化において、店の経営方針の転換を余儀なくされ、平成26年からITの活用を積極的に取り組んできた。

量製作ロボットの導入によるスピーディーかつ、きれいな仕上がり、ホームページによる広告・顧客の注文受付等に取り組み、生産性の向上、コストの削減等に繋がった。

また、量製作と合わせて、襖、障子、網戸の張替え等業務の幅が広がり、内装工事をトータルで受注できる体制も整ってきた。

現在、長男が量訓練校で勉強中なので、将来の後継者も育ってきている。

今後も、更に品質の向上、技術の習得を行い、顧客のニーズに応じて、品質第一・信頼・満足できる商品の提供をモットーとして取り組んでいきたい。



6. ものづくりマイスターがITを活用して生産性向上等に資する実技指導を行った好事例発表

好事例発表 株式会社 ヨコハマ吉倉 代表取締役社長 佐藤 優 様

平成2年に横浜市からいわき市に進出し、製缶、板金等の小物機械加工に重点を置き、事業展開をしてきた。

その後、自動車関係の検査装置（車検用）のフレーム製造等、幅広く自動車関係に携わって、マシニング導入を契機として、平成12年には大型五面加工機、平成19年には東北屈指の超大型五面加工機等を導入して、近年は、製造する業種の増、医療機器関係のフレームや航空機製作用の大型冶具の製作等多種にわたって高精度が求められる分野にも参入し、設備の充実によって一貫生産体制と短納期体制が可能となった。

これに伴い、マシニング等（数値制御式）の大型機械加工の技能の向上のため、技能士資格取得を目標に社内での勉強会を行ってきたが、自社教育での限界があり、課題が解消されないままであった。

平成28年度にいわき市のポリテクセンターからの紹介により、職業能力開発協会が所管する「ものづくりマイスター制度」を知り、さっそく平成28年度～29年度にかけて「ものづくりマイスター」を派遣していただき、従業員の実技指導を行っていただいた。

結果的に、2級技能検定受験（機械加工・マシニングセンタ）に5名を挑戦させましたが、内4名が合格して、合格した従業員も業務への意識が高くなり、自信が伴ってきて、技能の向上と併せて作業効率の向上に繋がってきた。

今後も、機会があれば「ものづくりマイスター制度」等による外部講師の活用を取り入れて、従業員のスキルアップを図っていきたい。



7. 意見交換

コーディネーター

(株)エフコム経営企画室長兼事業支援本部内部統制部長 **山川 克広 様**
(中小企業診断士／ITストラテジスト／ITマスター)



造園建設業協会 青年部長 **関根 巨樹 様**



- ・ものづくりマイスター制度を活用して協会・青年部が造園技術の向上・継承に取り組んでいる。
- ・客のニーズをキャッチし、提案力の向上が必要。
- ・3D、CAD等での「可視化」を提案。
- ・現場での対応は、単に木を植えるだけでなく、顧客の付加価値、ストーリー性を持たせる。
- ・庭は、家に付随するものでなくても良い。
- ・ITを活用して、顧客管理ツール等を整えていきたい。

坂内畳店 **坂内 章宏 様**

- ・3年前までは、手縫いの畳製作のみであった。
- ・ITの活用によって、コスト削減、生産性が向上し、将来への展望が見いだせたので、顧客の多種多様なニーズに対応できるようになった。
- ・襖張替え、フローリング、ドアノブ交換等の業務の幅が広がってきた。
- ・対応できない部分は、外注する等して臨機応変に顧客のニーズに応える。
- ・HP等のIT環境を更に発展させて、情報の発信作業の効率化、コスト削減を図っていく。



ヨコハマ吉倉 佐藤 優 様



- ・一貫生産体制の維持、ワンストップが顧客の理想。
- ・どこよりも早く、世の中のスピードに対応する。
- ・顧客への責任として、対応できないものは、断るのも仕事。
- ・その時代に必要とされる会社になれば、生き残れる。
- ・必要とされる企業になれるように、方向性を定める事が大事。
- ・NC（数値制御）加工機械を有効活用できる技術者の育成と併せて、設備を整えて事務所と作業現場の「見える化」が必要。

8. 全体総括（コーディネーター 山川 克広 様）

・攻めのIT活用について

外国では、ITを活用した売上向上等の競争力強化等（攻め）

日本では、ITを活用した社内業務の効率化・コスト削減等（守り）

（今後の流れ）

①置き換えステージ（パソコンの導入）メール・ホームページ等

↓

②効率化ステージ（クラウドサービス）業務支援システム・ネット販売等

↓

③競争力強化ステージ（攻めのIT投資）IoT、ビッグデータ、AI（人工知能）等の活用

・第四次産業革命

データ利活用に関連した技術革新（IoT、ビッグデータ、人工知能等）

これまでの経緯 第一次（動力の獲得：大量生産・高速輸送）

第二次（動力の革新：微細な制御）

第三次（自動化：省人化）

第四次（自律化：将来予測・無人化）

・IT活用促進の国家政策

①IT導入補助金（中小企業・小規模事業者等の生産性の向上）

②ミラサポ（中小企業・小規模事業者の未来をサポート）

③J-Net 2.1（中小企業ビジネス支援）

・今後の成長戦略の方向性

①外部環境の変化

②自社の強み／弱みの把握

③今後の戦略の方向性（①・②を検証して、強みを生かし機会を獲得するための戦略立案）

